

# 会 報

~~~~~ 卷 頭 言 ~~~~~

## 多様な生徒へ向けた定通教育活動の充実

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長

北海道有朋高等学校副校長 小林 洋 介

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、平素より当部会の運営、並びに諸事業の充実・発展にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。また、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会をはじめ関係諸機関の皆様からの多大なるご支援、ご指導を賜りますこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、令和2年11月、中央教育審議会初等中等教育分科会において「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）～多様な生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある高等学校教育の実現に向けて～」がまとめられました（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1395249\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1395249_00003.htm)）。ここでは多様な生徒のニーズを5つの分類に整理したのに対し、生徒の実態に応じてきめ細やかな対応を、各高等学校の現場において教職員の弛まぬ努力の下で、一人一人の生徒が高等学校卒業後にも、希望を胸に前に進んでいくことができるよう創意工夫に満ちた取組が、日々実践されていることの認識が示されています。こうした状況を踏まえ、定時制・通信制課程においては、今後とも生徒の実態や学習ニーズに応じた教育活動をより一層推進していくことが期待されるところであります。

令和5年2月、北海道教育委員会が推進する「定時制・通信制パワーアップ事業」において、研究協議会が開催（オンライン）されました。苫小牧工業高校と有朋高校の2校が、学校外の教育資源と連携体制を構築し、多様な生徒の学習ニーズに応える特色ある教育実践について丁寧な紹介がなされました。SCやSSW、特別支援教育支援員、大学・専門学校等の高等教育機関や企業、ハローワーク等の連携促進、更に多様な学習ニーズに応じてより一層きめ細かく対応していくことができるよう、ICTを効果的に活用した指導方法等の在り方と見通しについて、示唆に富む充実した内容でした。そして後半の参加校間協議では「定時制・通信制教育における特別支援教育の充実について」と題し、2校の実践発表を踏まえ、11のルームに分かれたグループ間で、日常の実践や取組、そして課題を共有できたことは、各校が抱える構造的な課題（地域性や生徒層等）の解決に向けた糸口を見出す良い機会となりました。

結びになりますが、およそ3年に及ぶコロナ禍にあって、新たに本会メンバーとなった皆様とも、集合形式による情報共有の機会が少なくなってしまうことをずっと危惧しておりました。定通教育に係る課題を、自校のみで解決することは困難であり、他校での取組の中に解決への手がかりを見つけ出すことのできる本会ネットワークは、小さくない力を有していると思っています。今後、感染症対策の取扱いの変更に見合ったポストコロナの時代にあって、再び集合型による研修が実施されることが望まれますが、北海道の広域性にコミットしたICTを一層活用する等の新たなカタチでの交流の深まりを大いに期待しています。

この1年間の会員の皆様のご支援ご協力に深謝申し上げ、巻頭の辞とさせていただきます。

## ポストコロナに向けた定時制・通信制教育の一層の充実に向けて

北海道高等学校長協会 定通部会長  
北海道有朋高等学校長 元紺谷 尊 広

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日頃より定時制・通信制教育の充実・発展にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、コロナと共存して3年が過ぎようとしています。新しい生活様式の定着やワクチン等により感染拡大を抑え、令和5年2月から感染症対策のレベル分類を「レベル1」に移行することで、マスク等の取扱いが緩和されるなど感染症対策と教育活動の両立に努めることが求められました。

この制約のある3年間においても、子どもたちのひたむきに頑張り自己表現する姿を見ることができました。定時制通信制の「甲子園」とも言われている生活体験発表大会では、感染拡大防止の対策を確実に行き、教育文化会館で全道大会を開催することができました。観客人数こそ制限されましたが、真剣なまなざしで語る生徒の姿はいつもと変わらず、胸を熱くさせました。全国大会においては道代表が3人選出され、内2人の生徒が入賞したことは私たちに希望と励ましを与えてくれました。

また、北海道教育委員会が推進する定時制・通信制パワーアップ事業において、先進的な取組を進めている苫小牧工業高校及び有朋高校の2校が、地域や関係団体等との密接な連携体制を構築し、生徒の多様なニーズに応える特色ある教育実践について紹介していただきました。入学する生徒の能力、適性、興味・関心等も多様化し、入学段階での実態も卒業後の進路も、抱える課題等も様々なものになっている中で、大変参考になる実践事例であると思います。ポストコロナに向けたこれらの取組を参考に、各校の生徒の実態、学校や地域の特色等に合わせてICTを活用したアレンジにて工夫・改善を加え、自校の教育活動の充実に役立てていただければ幸いです。

令和5年2月、中央教育審議会より次期教育基本計画答申案が公表されました。そこには日本社会が大きな転換点を迎える今、教育や学習の在り方も大きく変容求められている状況にあり、単なる理念の検討にとどまらない実効性のあるものにするための、制度等の改善など議論を進める必要があると述べられています。そしてその制度等の在り方について考える起点を、次のように記述しています。「また、何よりも、学習者の背景や特性・意欲の多様性を前提として、学習者視点に立ち、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように、制度等の在り方を考えていく必要があります。これは幼児教育から高等教育まで一貫して追求しなければならない目標です。」あまり聞き慣れないウェルビーイング(Well-being)という言葉ですが、Wellは「良い」、beingは「状態である」つまり「良い状態である」という意味であり、一般に「幸福」と訳されることが多いです。ウェルビーイングは主に欧米を中心に研究が進められてきましたが、日本社会に調和する「日本社会に根差したウェルビーイング」についての議論が現在盛んになされており、これからも集中的話し合われていくことが確実で、我々が子ども達の新たな学びの在り方や将来像を考える上で重要なキーワードとなっていくと考えられます。今後、益々多様化する生徒の実態や学習ニーズに応えるための教育活動が「ウェルビーイング」の考えとともに展開され、定時制・通信制教育の一層の充実が図られていくことを心から期待し、発刊にあたっての挨拶といたします。

**第73回全教協教育研究協議会 静岡大会報告**  
**北海道有朋高等学校 副校長 小林 洋介**

令和4年7月28日（木）から29日（金）の2日間にかけて、静岡県コンベンションセンター「グランシップ」において「第73回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会静岡大会並びに全国理事会・総会」が開催されました。2年ぶりの集合形式となり、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催も危ぶまれましたが、全国の教頭・副校長約200名の参加がありました。

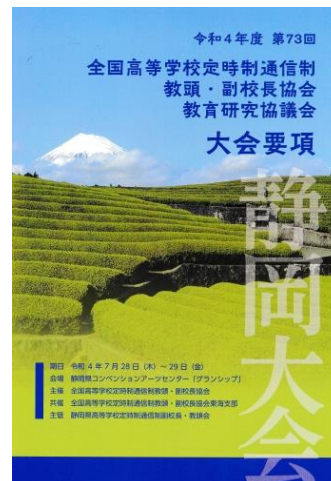
初日午前には、全国理事会・総会が開催され、令和3年度事業・調査研究活動報告及び会計決算等、続いて令和4年度役員改選・事業目標・事業計画・予算案等が決議されました。

午後からは、学校法人ムンド・デ・アレグリア学校長松本雅美氏による「外国人受入～外国人学校現場から伝えたいこと～」と題した記念講演が行われました。松本校長からは、学校創設の経緯や学校運営の様子、更に生徒の状況等を写真や動画を用いて講演されました。南米系外国人学校で準学校法人として認可第1号となるまでの苦労、そして自分の意思ではなく、親の都合でわけもわからず来日した子ども達の困り感や悲しみに寄り添いながら、なんとか将来に夢が持てるように働きかける姿勢に会場全体が感銘を受け、講演後の質疑も活発に行われました。参加者は現在の定時制・通信制が置かれている現状と問題点について、改めて認識を深めた様子でした。

教育研究協議会は「生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改善及び定時制通信制教育の充実のための方策について」を研究主題に据え、教育課程、生徒指導、管理運営、教育制度・単位制、通信教育の5つの分科会に分かれて2日間に渡り開催されました。北海道からは単位制の分科会において有朋高校単位制志田光瑞教頭が「単位制における多部制・定時制課程の在り方～多様なニーズに応える本校の現状と課題～」と題して、自校の課題と解決に向けた展望をお話しされまし

た。発表後の意見交換では、勤務校の課題を共有し合いながら充実した協議がなされ、助言者による講評に全体が頷いていました。

2日目の全体会において各分科会の報告とまとめの講評があり、無事閉会となりました。今大会は2年ぶりの集合開催で、引き継ぎも困難を極めた中、大会事務局である静岡県立静岡中央高校及び静岡県内各高校の多大なる尽力があったことは言うまでもありません。



**令和4年度 事業報告**  
**北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長**  
**北海道千歳高等学校 教頭 工藤 正人**

日頃より事務局の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
 さて、本年度の事業は皆さまのおかげを持ちまして、予定されていた事業をほぼ滞りなく実施することができました。心より感謝申し上げます。

● 北海道の事業計画

| No. | 期日               | 事業計画                               | 会 場                                                   |
|-----|------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 1   | 令和4年<br>5月25日(水) | ◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会<br>総会・研究協議会 | 内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議、研究協議 出席者：34名                    |
| 2   | 5月25日(水)         | ◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会              | 内容：報告事項、事業計画、予算案審議 出席者：34名<br>当番校：市立札幌大通高等学校          |
| 3   | 6月6日(月)          | ◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・研究協議会        | 内容：総会、表彰、研究協議 出席者：61名<br>当番校：北海道有朋高等学校                |
| 4   | 7月25日(月)         | ◆第54回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会           | 内容：講演、研究協議 出席者：37名<br>当番校：北海道札幌工業高等学校                 |
| 5   | 10月18日(火)        | ◆第66回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会       | 内容：生徒生活体験発表<br>当番校：北海道札幌月寒高等学校<br>札幌市教育文化会館各支部代表12名参加 |
| 6   | 令和5年<br>3月上旬     | ◆令和4年度調査研究部報告書発行<br>◆「会報」発行        | 内容：調査研究 「定時制通信制課程における三修制の検証及び新たな課題への対応について」           |

● 全国の事業計画

| No. | 期日                  | 事業計画                                            | 会 場                                                         |
|-----|---------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 1   | 令和4年<br>5月10日(火)    | ◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会<br>校長並びに教頭・副校長研究協議会       | 宮城県美田園高等学校(宮城県名取市)<br>(リモート開催) 参加者：部会長 1名                   |
| 2   | 6月3日(金)             | ◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会<br>第1回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) | 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)<br>出席者：事務局長 1名                     |
| 3   | 6月16日(木)<br>～17日(金) | ◆第74回全国高等学校通信制教育研究会総会<br>並びに研究協議会(全通研大会)        | 岐阜県長良川国際会議場<br>(リモート開催)<br>参加者：部会長、有朋高校教頭 計2名               |
| 4   | 7月28日(木)<br>～29日(金) | ◆第73回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会<br>総会・教育研究協議会(全教協大会)  | 静岡県コンベンションアーツセンター<br>グランシップ(静岡県静岡市)<br>参加者：部会長、有朋高校教頭 計2名   |
| 5   | 8月1日(月)<br>～2日(火)   | ◆第73回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会<br>(全振大会)              | レクザムホール(香川県高松市)<br>【中止】                                     |
| 6   | 11月20日(日)           | ◆第70回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験<br>発表大会                 | 六本木ヒルズハリウッドプラザ(東京都)<br>NHK会長賞 札幌工業高校定時制<br>メイ・ウシヤマ賞 有朋高校通信制 |
| 7   | 12月1日(木)<br>～2日(金)  | ◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会<br>教頭・副校長研究協議会            | 青森県立北斗高等学校(青森県青森市)<br>出席者：部会長 1名                            |
| 8   | 12月9日(金)            | ◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会<br>第2回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) | 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)<br>出席者：部会長、事務局長 計2名                |

## 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

オホーツク支部

北海道北見北斗高等学校 小笠原 茂美

### 1 オホーツク支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会オホーツク支部は、北海道北見北斗高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道網走南ケ丘高等学校、北海道大空高等学校の4校で構成されていましたが、令和4年度をもって、大空高校が全学年総合学科に移行したことにより定通部会から離れることになりました。長年に渡る定通部会へ貢献に感謝申し上げます。令和4年度は、最後の4校体制で、定通体連支部大会や生活体験発表大会等の運営を中心に活動してきました。

### 2 支部関連事業

#### (1) 令和4年度(2022年度)北海道高等学校定時制通信制体育連盟オホーツク支部大会

##### ア バドミントン

期 日 令和4年5月29日(日)

会 場 遠軽町総合体育館

##### イ 卓球

期 日 令和4年5月29日(日)

会 場 遠軽町総合体育館

最後の定通体連に参加した大空高校は、最終学年のみの参加ではありましたが、4校合わせて、男子バドミントンに個人14名、団体2校、女子バドミントンには7名、男子卓球に4名、女子卓球1名がエントリーし、熱戦を繰り広げました。なお、卓球女子が1名のみ参加だったため、エキシビジョンマッチとして男子の組合せに入り、試合経験を積んでいます。大会結果として、バドミントン男子団体を大空高校が制し、有終の美を飾るとともに個人戦でも1位、2位を獲得し、全道大会に進出しています。

次年度からは、参加校も減り、参加生徒数も減少傾向にあります。生徒にとっては普段の練習の成果を発揮する貴重な機会であり、次年度以降

も生徒の高校生活における目標となる大会運営に努めたいと考えます。

#### (2) 令和4年度(2022年度)オホーツク管内高等学校定時制生徒生活体験発表大会

ア 期 日 令和4年9月3日(土)

イ 会 場 北海道網走南ケ丘高等学校

ウ 参加数 北海道北見北斗高等学校2名  
北海道遠軽高等学校3名  
北海道大空高等学校2名  
北海道網走南ケ丘高等学校2名

#### エ 結 果

優 勝 (全道大会出場)

北海道網走南ケ丘高等学校

準優勝

北海道北見北斗高等学校

三 位

北海道網走南ケ丘高等学校

新型コロナウイルス感染拡大はありましたが、感染対策を図り、昨年度に引き続き、集合による大会開催となりました。生徒は各校を代表し、これまでの体験や現在の高校生活、さらには将来の目標を堂々と表現し、運営に協力頂いた当番校生徒をはじめ、聴衆の胸を打つ発表会だったと思います。次年度は、3校体制での発表会になりますが、生徒にとって貴重な自己表現の機会確保に努めたいと思います。

### 3 まとめ

新型コロナウイルス感染症による影響で、観客の制限など、まだまだ制約があった年度ではありましたが、それでもほぼコロナ禍前の体制に戻りつつあります。大空高校が離れ、3校体制にはなりますが、生徒の自己有用感、肯定感を育む機会を定通教頭・副校長会でもしっかりと支援していきたいと思っております。



## 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

道南支部支部長

北海道函館中部高等学校 黒田 治

### 1 道南支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会道南支部は、北海道函館中部高等学校、北海道函館商業高等学校、北海道函館工業高等学校の3校で構成されている。

道南支部の活動として、定通体連支部大会や生活体験発表大会等の運営、3校の生徒全員が参加する講演会を行っている。また、3校の教員がほぼ全員参加する渡島地区高等学校定時制教育研究会総会及び研究会などの活動を行っている。

### 2 支部事業

#### (1) 令和4年度渡島地区高等学校定時制教育研究会総会並びに教育研究会

本研究会は渡島地区高等学校の定時制教育の振興と会員の資質向上を図ることを目的として毎年11月に開催している。

開催日 令和4年11月28日(月)

会場 北海道函館中部高等学校

内容 3校の共通の課題解決に向け外部講師を招いての研究協議

講師 函館少年鑑別所支所長

講演 「少年非行の現状と生徒理解」  
～少年鑑別所の現場から～

研究会では、生徒理解について、心理士でもある少年鑑別所支所長様より近年の青少年の犯罪傾向や犯罪の未然防止における学校教育の重要性に関するお話があり、様々な生徒の悩みや課題の解決に向けた生徒への配慮や心掛けなど、生徒理解に向けた多面的な指導の在り方について学ぶ有意義な研究会であった。

### 3 支部関連事業

#### (1) 令和4年度渡島地区高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会

開催日 令和4年9月9日(金)

会場 函館市芸術ホール

参加数 北海道函館中部高等学校2名

北海道函館工業高等学校2名

北海道函館商業高等学校1名

#### 結果

最優秀賞(全道大会出場)

北海道函館中部高等学校

優秀賞 北海道函館工業高等学校

優秀賞 北海道函館商業高等学校

#### ※全道大会

優秀賞 北海道函館中部高等学校

昨年度は感染防止策として、各校の代表者のみの発表大会であったが、今年度は3校の全校生徒が参集した中での発表大会が開催され、発表者の思いがこもった素晴らしい発表が披露された。結果は函館中部高校の代表生徒が全道大会へ進み、全道大会において第3位の優秀賞及び教育長賞を受賞した。

#### (2) 令和4年度北海道高等学校定時制通信制体育大会 渡島支部大会

##### ◎ バドミントン

期日 令和4年5月27日(金)

会場 北海道函館工業高等学校

結果 男女団体、男女個人優勝  
北海道函館中部高等学校

##### ◎ 卓球

期日 令和4年5月27日(金)

会場 北海道函館商業高等学校

結果 男女個人優勝

北海道函館中部高等学校

### 4 まとめ

定時制に通う生徒は、働く青少年の学びの場から、不登校など様々な悩みや課題を抱えている生徒の学びの場へと変化してきている。

このような状況において、それに対応する学校として3校で合同の研究会や研修会をとおして、その対応策や新たな気づきを学び合うことが大切なことだと考える。今後も継続して道南支部の学校間で連携を大切にしていきたい。

## 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

胆振支部

北海道室蘭栄高等学校 岩田 一郎

### 1 胆振支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会胆振支部は、北海道室蘭栄高等学校、北海道苫小牧東高等学校、北海道苫小牧工業高等学校の3校で構成されております。定通体連支部大会や生活体験発表大会等の運営を中心に活動しています。

今年度は定体連地区大会のほか、全道大会当番校として、定体連3種目バレーボール、柔道、バスケットボールの全道大会を運営しました。

### 2 支部関連事業

#### (1) 令和4年度(2022年度)北海道高等学校定時制通信制体育連盟胆振支部大会

##### ア バドミントン

期日 令和4年5月28日(土)

会場 北海道苫小牧工業高等学校

##### イ 卓球

期日 令和4年5月28日(土)

会場 北海道苫小牧東高等学校

##### ウ バスケットボール

期日 令和4年5月28日(土)

会場 北海道室蘭栄高等学校

※3種目とも参加校または対戦校なしのため実施せず

例年3競技を実施し、各校持ち回りで競技の運営を行っています。しかし、今年度については、すべての競技が参加校または対戦校なしのため、支部大会は実施せず、卓球とバドミントンの参加登録選手が、そのまま全道大会へと進みました。胆振支部においては、参加生徒も減少しており、今年度においては卓球男女各1名、バドミントン男子1名の参加希望となり、団体競技の実施はさらに難しくなっている現状があります。

#### (2) 令和4年度(2022年度)胆振地区高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会

ア 期日 令和4年9月16日(金)

イ 会場 北海道苫小牧工業高等学校

ウ 参加数 北海道室蘭栄高等学校2名  
北海道苫小牧東高等学校2名  
北海道苫小牧工業高等学校2名

##### エ 結果

・最優秀賞(全道大会出場)

北海道室蘭栄高等学校

・優秀賞

北海道室蘭栄高等学校

北海道苫小牧工業高等学校

各校から2名ずつ、計6名が発表者として参加しました。新型コロナウイルス感染症対策を取った上、昨年度とは違い2年ぶりで、集合型で実施することができました。会場校の生徒が、発表者の体験や将来の抱負などを直接聞きながら、今後の学校生活や将来に対して前向きに考える、とても良い機会となりました。次年度も従来通りの開催ができればと考えています。

### 3 まとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症による影響は大きくあり、完全に戻るには時間を要すると感じています。学校での他の教育活動と同様に、事務局と当番校が知恵を絞りながら感染対策にさらに工夫を重ねながら集合型の大会を実施することで、開催の隘路を見いだすことができたと考えています。今後も安全で実りある大会の形を模索していけるものと実感しています。

北海道高等学校定時制通信制体育大会報告  
北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長  
市立札幌大通高等学校教頭 勝田 敏正

令和4年度の事業につきまして、当番校をはじめ、関係各位のご尽力により、すべて滞りなく終わることができました。各支部事務局校をはじめ、当番校、専門委員の皆さまにおかれましては、春季支部大会、全道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、定通体連事務局のWebサイト（市立札幌大通高等学校）に掲載しております（<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairen/>）ので、ご覧いただければ幸いです。

今年度も北海道チームの活躍が目覚ましく、団体では女子バレーボールで札幌大通高校が第3位。個人では男子バドミントンで有朋高校の遠藤龍哉さんが第5位、女子卓球で大通高校の大久保ひかりさんが優勝し、全国2連覇という特筆すべき結果を残しております。定時制・通信制という恵まれない環境のもと、日々努力を重ねて精進した選手、そして指導にあられた顧問の皆様、心より敬意を表します。

道内では生徒数が減少し、それに伴う教員数の減少により、大会の運営が困難な状況もありますが、ご理解・ご協力をお願いする次第です。また、定時制通信制体育連盟の大会では記録や勝敗にこだわらず、スポーツを愛する心や目標に向かって挑戦すること、お互いの健闘をたたえあうことを標榜してきました。この理念のもと、健全な青少年育成を目指し、引き続き各校での部活動へのご指導・ご協力をお願い申し上げます。

今年度も大変お世話になりました。次年度も、よろしく申し上げます。

第54回北海道高等学校給食研究協議会  
北海道大会 報告  
北海道札幌工業高等学校教頭 榎本 哲史

令和4年7月26日（火）に第54回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が札幌工業高校を会場にして開催され、全道から多くの給食担当者が参加した。

1 理事総会・研究協議会

(1) 報告事項

- ア 令和4年度活動計画及び中間報告
- イ 令和10年度までの各種輪番等の確認

(2) 協議事項

- ・アンケート集約による情報共有
- ・過去の大会の参加状況の情報共有

(3) その他

- ・今後の大会の課題

2 第54回北海道大会

(1) 講演

講師 公益財団法人 北海道学校給食会  
専門員（衛生管理）宮村寧二氏  
演題 『家庭での食中毒予防と感染症について』

要旨 学校給食や家庭に置ける食中毒、感染症予防と衛生管理について

1. 食中毒の原因

- ①細菌とウイルスの違い
- ②食中毒の分類

2. 感染の仕方

- ①飛沫感染
- ②接触感染

3. 予防

- ①家庭でもできる食中毒予防のポイント
- ②加熱・手洗い・消毒

(2) 研究発表

発表 北海道網走南ヶ丘高等学校

教頭 竹内栄治氏

テーマ 『本校における学校給食の現状と課題について～給食と食育教育から生徒の心と体を育てる～』

要旨 地域連携した学校の様子と食育教育について報告



## 第 66 回北海道高等学校定時制通信制生徒

### 生活体験発表大会報告

北海道札幌月寒高等学校 教頭 今中 勇希

第 66 回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は令和 4 年 10 月 18 日（火）に札幌市教育文化会館において開催されました。関係各位の多大なる御指導と御協力をいただき、無事終わることができました。当番校として心から感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を万全に行った上で、3 年振りに集合型の開催となりました。当日は、全道 9 支部の定時制高等学校の代表者 10 名と通信制高等学校の代表者 1 名、そして、当番校枠として北海道札幌月寒高等学校より 1 名の計 12 名の代表が集い、それぞれの貴重な体験を堂々と発表しました。

不登校や人間関係のもつれ、病気など様々な困難を乗り越えて懸命に生きていく力強さ、将来の夢の実現に向かって地道に努力するひたむきさ、家族や友達、先生への感謝の想いなど、全ての発表に前向きに生きていこうとする強い意志が表れていました。

審査は全国大会の審査基準に準じ、審査委員長である市立札幌大通高等学校長 池田吉利様をはじめ 5 名の審査員により発表内容、発表方法について慎重に審査していただきました。北海道代表として選ばれた北海道札幌工業高等学校及び北海道有朋高等学校の 2 名の生徒は、自信と誇りを持って全国大会に臨み、その力を存分に発揮してくれたものと思います。

本大会の詳細な内容につきましては、令和 5 年 2 月に全道の定時制・通信制の学校にお届けした「輝く青春」第 56 集に掲載していますので是非ご覧いただければと思います。

終わりになりますが、会場の札幌市教育文化会館の皆様をはじめ、全道の定通教育に携わっている全ての方々、御協力をいただきました関係各位にこの場をお借りして感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



【開会式】



【発表の様子】



【表彰式】



【全体写真】

定時制課程における三修制の取組状況の検証と新たな課題への対応について

定通部会調査研究部

調査研究部長 柴 崎 智 勝 (北海道札幌南高等学校)

1 はじめに

定時制課程とは、「夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程」である（学校教育法第4条）。かつての働きながら学ぶ勤労学生の姿は減り、その状況は変化し、不登校経験者、全日制課程からの転・編入学する方や過去に高校教育を受けることができなかつた方など「多様な入学動機や学習歴を持つ方」が増えてきている。定時制高校は、通信制高校とあわせて、義務教育終了後の学びを保障する『最後の砦』に位置づけられ、学力面を含む様々な困難を抱えた生徒たちが通っている現状がある。

これら定時制・通信制教育の役割の変化に伴い、多様な学びのニーズに対応する方策のひとつとして、平成元年から従来「4年以上」であった修業年限が「3年以上」に弾力化された（以下、「三修制」と表記）。その後、北海道内の多くの高等学校の定時制課程においても三修制が導入され、その状況については平成29年度に本定通部会調査研究部より、調査研究が行われ、報告されている。

本調査研究は、三修制の導入の有無や希望生徒の割合等を調査した先行調査研究から5年が経過した各校における現状、各校の具体的な取組状況、取組の課題やその解決のための方策について検証することを目的とする。また、\*令和6年度（2024年度）から高等学校卒業程度認定試験の科目変更により、修得単位数が変更されるため、各校で学校外における学修の単位認定における新たな課題が発生する。この対応策等についても調査し、まとめたものである。

\*令和6年度（2024年度）から高等学校卒業程度認定試験の科目変更による修得単位数が変更による新たな課題

| 教 科        | 令和5年度試験まで              |                                             | 令和6年度試験から |    |
|------------|------------------------|---------------------------------------------|-----------|----|
|            | 試験科目（単位数）              | 要件                                          | 試験科目（単位数） | 要件 |
| 地 理<br>歴 史 | 世界史A(2単位)<br>世界史B(4単位) | 左記2科目のうちいずれか1科目必修                           | 歴史(2単位)   | 必修 |
|            | 日本史A(2単位)<br>日本史B(4単位) |                                             |           |    |
|            | 地 理A(2単位)<br>地 理B(4単位) | 左記4科目のうちいずれか1科目必修                           | 地理(2単位)   | 必修 |
| 公 民        | 現代社会(2単位)              | 以下①か②のいずれかを必修<br>①現代社会1科目<br>②倫理及び政治・経済の2科目 | 公共(2単位)   | 必修 |
|            | 倫 理(2単位)               |                                             |           |    |
|            | 政治・経済(2単位)             |                                             |           |    |

(例) 令和5年度試験までは「世界史B(4単位)」と「地理B(4単位)」合格で計8単位の認定が、令和6年度試験から「歴史(2単位)」と「地理(2単位)」合格で計4単位の認定となり、4単位も減少してしまう。

## 2 調査の概要

調査は、Google Forms による Web アンケート（選択方式及び記述方式）によって実施した。

調査対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会に加盟する 43 校とし、調査期間は令和 4 年(2022 年)12 月 16 日（金）～同年 12 月 26 日（月）とした。33 校から回答が得られ、回収率は 77%であり、調査研究部がアンケートを集約し、その結果を検証した。

## 3 調査結果及び考察

### 3-1 三修制を導入している学校

<平成 29 年度報告書から>

- ・三修制を導入した学校は 29 校（67%）
- ・専門学科の学校はほとんど三修制を活用していない
- ・農業科の多い昼間定時制では 3 年で卒業するカリキュラムが基本

<令和 4 年度調査結果>

- ・三修制を実施している学校は 22 校（51%）  
[三修制を廃止した学校の理由]
- ・希望する生徒が全くいない
- ・教職員の負担が大きくなりゆとりがなくなり生徒指導にも影響したため
- ・三修制のために本来の教育課程（四修）の趣旨が薄れるため 等

### 3-2 学校外における学修の単位認定方法と過去 5 年間の三修制による卒業生数（表）

| 管内    | 種別       | 学校外における学修の単位認定方法 |      |      |      |                |         | 三修制による卒業生数 |       |       |        |        |
|-------|----------|------------------|------|------|------|----------------|---------|------------|-------|-------|--------|--------|
|       |          | 定通併修             | 高卒認定 | 各種検定 | 外部活動 | (近年の実績)        | その他     | R3 年度      | R2 年度 | R1 年度 | H30 年度 | H29 年度 |
| 石狩    | 三部制      |                  | ○    | ○    | ○    |                | 実務代替    | 10人以上      | 10人以上 | 10人以上 | 10人以上  | 10人以上  |
| 石狩    | 夜間定時     |                  | ○    | ○    | ○    | ボランティア         |         | 2          | 1     | 0     | 4      | 1      |
| 石狩    | 夜間定時     |                  | ○    | ○    | ○    |                |         | 5          | 4     | 8     | 6      | 4      |
| 石狩    | 夜間定時     | ○<br>有朋へ通学       | ○    |      | ○    |                |         | 0          | 0     | 0     | 0      | 0      |
| 石狩    | 夜間定時     |                  | ○    | ○    | ○    | ボランティア<br>企業実習 |         | 7          | 6     | 10人以上 | 4      | 2      |
| 石狩    | 夜間定時     |                  | ○    | ○    | ○    |                |         | 0          | 2     | 0     | 0      | 0      |
| 石狩    | 夜間定時     | ○<br>有朋へ通学       | ○    | ○    | ○    |                |         | 0          | 0     | 0     | 0      | 0      |
| 空知    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       | ○    | ○    |      |                |         | 3          | 4     | 1     | 4      | 2      |
| 空知    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      |      |      |                |         | 6          | 2     | 0     | 3      | 1      |
| 後志    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      |      |      |                |         | 0          | 7     | 1     | 4      | 5      |
| 後志    | 昼間定時(4年) |                  |      | ○    |      |                |         | 9          | 7     | 10人以上 | 10人以上  | 10人以上  |
| 上川    | 夜間定時     |                  |      | ○    |      |                |         | 4          | 2     | 4     | 1      | 0      |
| 上川    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       | ○    | ○    |      |                |         | 4          | 1     | 1     | 2      | 0      |
| 上川    | 夜間定時     |                  | ○    | ○    | ○    |                | 実務代替    | 2          | 1     | 0     | 0      | 0      |
| 日高    | 夜間定時     |                  |      |      | ○    | 地域産業学習         |         | 8          | 10人以上 | 10人以上 | 10人以上  | 10人以上  |
| 胆振    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      |      |      |                | 実務代替    | 1          | 6     | 0     | 2      | 1      |
| オホーツク | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       | ○    | ○    | ○    | ボランティア<br>企業実習 | 0時間目の実施 | 6          | 6     | 4     | 10人以上  | 6      |
| オホーツク | 夜間定時     |                  |      | ○    | ○    | 地域行事への参加       |         | 1          | 4     | 0     | 2      | 9      |
| オホーツク | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      |      |      |                |         | 1          | 0     | 1     | 0      | 0      |
| 釧路    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      | ○    |      |                |         | 0          | 2     | 0     | 0      | 0      |
| 宗谷    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      | ○    |      |                |         | 2          | 2     | 7     | 1      | 2      |
| 十勝    | 夜間定時     | ○<br>有朋協力校       |      |      |      |                |         | 1          | 10人以上 | 5     | 4      | 6      |

### 3-3 3-2における考察

#### ア 現状

- ・石狩管内の夜間定時制高校では、主に高等学校卒業程度認定試験を活用した単位認定を行っている。
- ・石狩管内周辺の夜間定時制高校では、主に定通併修と高等学校卒業程度認定試験を活用した単位認定を行っている。
- ・高等学校卒業程度認定試験会場が札幌市となっているため、上記2点のような実態となっていることが考えられる。
- ・過去5年間、石狩管内の夜間定時制高校で、三修制による卒業者が0となっている要因として、教育課程において「体育」の履修が3年次までに6単位（必履修7単位）となっており、残り1単位を定通併修で履修することに対してのハードルが高くなっていることが推察される。
- ・有朋高校協校校となっている夜間定時制高校では、主に定通併修を活用した単位認定を行っている。
- ・昼間定時制高校（4年）では、地域と連携した学習を実施し、学修外における単位認定を行っている。
- ・平成29年度の先行調査研究において、「三修制を希望する生徒が多くない」と報告されているが、平成29年度から令和3年度までの三修制による卒業生数において（表右側）、各校及び年度によって多少のばらつきはあるものの「三修制を希望して卒業していく生徒が一定数いる」ことがわかる。また、地域差はほぼないものと考えられる。

#### イ 特色ある取組例

##### 【A 高校（夜間定時制）】

- 平成25年度より3年次卒業コースを導入。
- 3年次までの1～4校時の授業（57単位）に加え、17単位以上を下記のいずれかの方法で修得する。
  - ・定通併修・・・有朋高校通信制課程の科目から選択し、各科目のレポート提出、面接（スクーリング）等を行う。
  - ・3年次卒業コース選択科目・・・始業前の時間帯（0時間目16:30～17:15）に設定された授業を選択し、受講する。
  - ・高等学校卒業程度認定試験・・・5教科17科目からの合格による単位認定をする。
  - ・技能審査・・・設定された資格・検定の合格による、その級に応じた単位認定をする。
  - ・社会参加活動・・・ボランティア活動や就業体験（インターンシップ）などについて活動時間に応じて単位認定をする。
  - ・実務代替・・・学校設定科目「企業実習」として、就労を時間数に応じて単位認定をする。雇用主からの「勤務状況報告書」を年4～6回提出。年度始めの教員による「職場訪問報告」を実施。1単位あたり就労時間240時間とし、単位数上限3単位としている。

##### 【B 高校（夜間定時制）】

- 昼は地域の大自然で学び（地域における産業学習を学校外における学修単位として3年間で21単位認定）、夜は高校で学ぶ（3年次までの1～4校時の授業）を57単位認定している。
- 地域における産業学習は、学校所在地の自治体の教育委員会が主催している。
- スキーコースとアウトドアコースの2コース3クラス制。
  - ・スキーコース・・・基礎スキーの技術向上を図ることを目的としている。
  - ・アウトドアコース・・・アウトドア探究クラスと写真探究クラスに分かれ、地域のフィールドワークやボランティア活動、写真撮影技術向上を目的としている。

## ウ 課題

- ・3年生のぎりぎりになって卒業予定となる生徒への進路指導が大変である。
- ・三修制を活用する生徒と四修の生徒間の隔たりが多少みられる。
- ・教職員数が限られていることもあり、三修と四修が混在する学年の指導が大変である。
- ・三修制を活用して卒業する生徒が多いため、4年次の生徒が減少し学校行事等の運営の工夫が必要となる。
- ・0時間目実施において、全日制の放課後の活動を保障しながら、使用教室の確保や音の問題等を全定で調整が必要となる。

## エ 課題解決のための方策について

- ・入学当初から三修制希望生徒に対して、単位修得及び進路関係のスケジュールを整理した計画的かつ組織的な指導を実践していく。
- ・成人年齢引き下げ（18歳成人）による、生徒への社会的自立を促す意味も含めた三修制の指導を実践していく。
- ・定時制教育の核となる、「多様性を認めあう教育と多様な学習ニーズへの対応」を教職員間で共有・実践していく。定時制教職員がまず高い受容力を持ち、自分と異なる考えや人を認め尊重し合う集団づくりを実践していけるように校内研修等を重ねていく。
- ・学年の枠を超えた仲間づくり、コミュニケーション能力向上を目的とした全校生徒が一斉に活動する学校行事の実施を検討する。
- ・全定併置校において、両課程の生徒の活動の両立を目的とした、管理職間及び教職員間の日常的な連絡調整や情報共有を徹底する。

## オ 令和6年度（2024年度）から高等学校卒業程度認定試験の科目変更による修得単位数変更における新たな課題解決の方策について

○表にある高等学校卒業程度認定試験による単位認定をしている11校が対象となる。

- ・対応についてはこれから検討していくという学校がほとんどである。
- ・近年、高卒認定試験を受ける生徒がほとんどいないため、現状の対応のままの予定である。
- ・教育課程の見直し（1年19単位、2年19単位、3年18単位→3年19単位）と高等学校卒業程度認定試験及び各種検定試験合格率向上のための計画的かつ組織的な講習や勉強会の実施を検討していく。
- ・0時間目の実施や実務代替（学校設定科目）による単位認定を検討していく。

## カ その他

○令和5年度以降の本部会調査研究において、取り挙げて欲しいテーマや各校の取組状況を確認したい課題等について

- ・ICTの活用状況について
- ・就職指導及び就労支援等の進路指導の取組について
- ・観点別評価の取組について
- ・発達障がいやLGBTQ（SOGI）等の特別な配慮を要する生徒への対応について
- ・外部関係機関との連携の事例について
- ・時代に即した「教務内規」、「生徒心得」、「進路のしおり（キャリアパスポート）」等の改訂についての各校の取組状況について

## 4 おわりに

先行調査研究の報告から5年を経過し、三修制の活用が7校ほど減少した。しかし、本調査の結果、地域によって三修制に対する単位認定方法は異なるものの、定時制課程へ入学して三修制を希望する生徒やその保護者のニーズに応える取組を実践し、一定の成果を出しているといえる。また、三修制を学校の特色化の一つとして、機能させている学校もみられる。

本調査・研究により明らかになった各校の現状や課題を共有し、今後各校において課題の改善に取り組み、持続可能な三修制の実践となるきっかけとなれば幸いである。

最後に、多忙な中、調査にご協力いただいた本部会加盟校の副校長・教頭先生方に、改めてお礼申し上げます。

## 令和5年度 定通部会 事業計画 (案)

### ● 北海道の事業計画 (案)

| No. | 期日                | 事業計画                               | 会 場                           |
|-----|-------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 1   | 令和5年<br>5月24日 (水) | ◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会<br>総会・研究協議会 | ホテルライフオート札幌                   |
| 2   | 5月24日 (水)         | ◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会              | ホテルライフオート札幌                   |
| 3   | 6月5日 (月)          | ◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・<br>研究協議会    | ホテルライフオート札幌<br>当番校：北海道有朋高等学校  |
| 4   | 未 定               | ◆第55回北海道高等学校給食研究協議会北海道<br>大会       | 内容：講演、研究協議<br>当番校：北海道札幌工業高等学校 |
| 5   | 10月12日 (木)        | ◆第67回北海道高等学校定時制通信制生徒<br>生活体験発表大会   | 内容：生徒生活体験発表<br>当番校：北海道札幌南高等学校 |
| 6   | 令和6年<br>3月上旬      | ◆令和5年度調査研究部報告書発行<br>◆「会報」発行        | 内容：調査研究「未定」                   |

### ● 全国の事業計画 (案)

| No. | 期日                     | 事業計画                                               | 会 場                                      |
|-----|------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1   | 令和5年<br>5月9日 (火)       | ◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会<br>校長並びに教頭・副校長研究協議会          | 宮城県美田園高等学校 (宮城県名取市)<br>場所：まなウェルみやぎ体育館    |
| 2   | 6月2日 (金)               | ◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会<br>第1回全国常任理事研究協議会 (全教協理事研)   | 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都)                |
| 3   | 6月15日 (木)<br>～16日 (金)  | ◆第75回全国高等学校通信制教育研究会総会<br>並びに研究協議会 (全通研大会)          | 京都府 (場所：京都府民総合交流プラザ)                     |
| 4   | 7月27日 (木)<br>～28日 (金)  | ◆第74回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協<br>会総会・教育研究協議会 (全教協大会)    | 場所：山梨県立図書館 (山梨県甲府市)                      |
| 5   | 8月3日 (月)<br>～4日 (火)    | ◆第74回全国高等学校定時制通信制教育振興会大<br>会 (全振大会)                | 岡山県 (場所：未定)                              |
| 6   | 10月26日 (木)<br>～27日 (金) | ◆令和5年度第75回東北・北海道地区高等学校通信<br>制教育研究会総会・研究協議会 (北海道大会) | 星瑛国際高等学校 (北海道札幌市)<br>場所：カナモトホール          |
| 7   | 11月19日 (日)             | ◆第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験<br>発表大会                    | 六本木ヒルズハリウッドプラザ (東京都)                     |
| 8   | 12月7日 (木)<br>～8日 (金)   | ◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会<br>教頭・副校長研究協議会               | 山形県立霞城学園高等学校 (山形県山形市)<br>場所：山形県立霞城学園高等学校 |
| 9   | 12月1日 (木)              | ◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会<br>第2回全国常任理事研究協議会 (全教協理事研)   | 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都)                |

#### 【編集後記】

定通部会における広報部の業務につきまして御理解・御協力いただきありがとうございます。おかげさまで、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。編集発行にあたり、校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の元紺谷校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生方にあたためて感謝申し上げ、編集終了のあいさつとさせていただきます。

〔北海道札幌月寒高等学校教頭 今 中 勇 希〕